

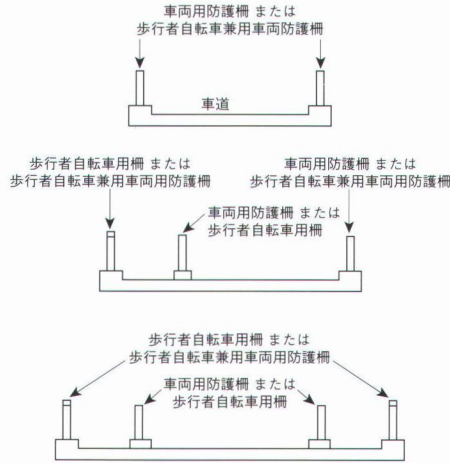
# 8. 防護柵の計画フロー

## 防護柵の設計条件

防護柵は、橋梁の架橋位置や道路の構造において要求される機能性を満足しなければならない。特に、形状や配置に関しては、橋梁利用者の行動を予測して決定する必要がある。

## 防護柵の景観設計

防護柵の形状は、高齢者や障害者などの利用にも配慮する。防護柵の景観性は、橋面上からの視点による内部景観と、橋梁外部からの視点による外部景観を検討する必要がある。

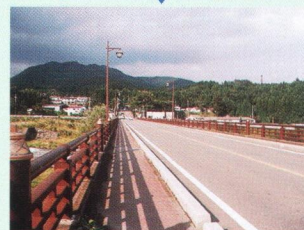


## 融和型

### 形状の工夫

### 配置の工夫

内部景観



外部景観



透明感をイメージした例

スリム感をイメージした例

主桁と類似調和した防護柵の例

留意点

- ① 防護柵の形と色彩を工夫して、内部景観では存在感を小さくし、外部景観においては透明になるようにする。
- ② 周辺環境の色彩を考慮し、溶け込むようにする。

留意点

- ① デザインコンセプトを決める。
- ② 重量感を与えすぎない。
- ③ 歩行者やドライバーの支障とならないようにする。

留意点

- ① 主構造と類似調和する色彩を選定する。
- ② 架橋地点のイメージを考慮して色彩を選定する。

# 防護柵

## 構造検討

調査項目	検討項目
①車両の衝突速度	①基本形式（壁式、柵式）
②車両の重量	②支柱基部構造
③車両の衝突角度	③支柱間隔
④車両の受ける加速度	④支柱の断面形状
⑤車両の最大進入行程	⑤経済性
⑥橋梁色	など
⑦視点位置	
など	

NO

強調するか

YES

## 強調型

### 形状の工夫

### 色彩の工夫

内部景観



外部景観



防護柵の形を強調した例

アクセントカラーを用いた例

留意点

- ①防護柵の形を強調し、連続性のある構造美を演出する。
- ②橋梁の利用者に安心感を与える形状にする。

留意点

- ①対比調和する色彩を選定する。
- ②アクセントカラーを用いる。
- ③防護柵の色彩は、内部景観において大きな影響があるため、利用者に不快感を与えないように選定する。